

【夢洲第2期マスタープラン修正要望:重点3項目】

① **GX-ZEHの完全義務化** 咲洲庁舎にペロブスカイト太陽電池を展示しながら、隣接する夢洲の開発を「努力目標」に留めるのは一貫性に欠ける。国際金融都市に相応しいESG投資を呼び込むため、全建築物へのGX-ZEH実装を「義務」として明記すること。

② **「日本版リビエラ」への再定義** 単なる万博跡地利用ではなく、世界水準のマリーナと居住機能を備えた「リビエラ・モデル」を導入すること。これにより、富裕層の資金を関西三都(大阪・京都・神戸)へ還流させる持続可能な経済循環を創出すること。

③ **専門家による「1期・2期一体型」の監修** 1期(IR)と2期(広域拠点)を分断せず、景観・機能の両面で一体感のあるマスタープランに昇華させること。その際、ラグジュアリー市場とGX建築に精通した外部専門家の知見を公募条件に加えること。